

2024年度 入学試験 学特入試Ⅱ・一般

国 語

※問題は1ページから15ページまであります。

※マークシートに、受験番号・氏名・科目を正しく記入してください。

※解答は、すべてマークシートに記入してください。

※書き誤りをしたときは、きれいに消してから、新しい解答を記入してください。

学 特 入 試 Ⅱ 般	受 験 番 号		氏 名	
----------------------------	------------------	--	------------	--

高崎健康福祉大学高崎高等学校

□ 次の文章は、筆者が大学のゼミに参加した時のことを思い起こしながら書いたものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

ほくは、自分の言葉がきちんと受けとめられることにとても驚いて、ほんとうにうれしく思った。それはいまでも、忘れることができない。そしてその過^Aテイで、ほくはこういうことを思うようになった。

〈人間はそれぞれ、その人なりに苦勞したりしながら、生きるための努力^Aを続けている。ほくだけが苦勞しているわけでもなく、ほくだけが偉いのではない〉

〈ほくだけの悩みと思っていたものは、意外にそうではない。他の人も、大なり小なり、同じような悩みを抱えている〉

〈これまでのほくは、「自分だけがわかつている」と思うことで、他人との関係をほんとうに大切なものとは思っていなかった。しかし、その態度はむしろ自分を貧しくさせていたのだ〉

それと同時に、〈だれかを批判するときには、相手の事情をくみとつたうえで相手に通じるような言葉をつくらなくてはならない〉。強く思う思うようになってきた。

I、相手のことがわかること、相手を信頼できること、自分が受け入れられていると感じること、そういう喜びをほくが必要とするようになったからだ。

つまり、関係の喜びを求めるからこそ、言葉を鍛える意味がある。——自分に不満があるならそれは何かよく考えてみることに、相手の事情を考えあわせてみることに、そのうえで、最終的に相手に通じるような言葉をつくらうとすること。そういう「言葉のモラル」についてほくは何度か語ってきたけれど、それは別に「義^たしい態度」を意味しない。むしろそれは、関係の喜びを深くしていくための「技術」なのだ。

もちろん、言葉を鍛えたからといって、他人がそれをそのまま受け取ってくれるとはかぎらない。とくに職場のようなどころでは、いかに自分が懸命に「みんなにとつて」を考えたとしても、それが通るかどうかは上^Bシ次第かもしれない。また、友人関係やサークルのような比較的^C自由な場面でも、関係がシガラミになっていかなか動かせなくなっている場合もあるだろう。

ではどこまでがんばるか。これはまったく、その人次第なのだと思う。動かせないならあきらめて別の場所を探してもいいし、この場所は大切だと思つてがんばってもいい。「どうすることが自分にとっていちばんよいのか」ということだけが、問題だからだ。

*ヘーゲルが『精神の現象学』で語ろうとした「理性」や「真実の良心」も、その内実は、ほくがいまいったこととそれほどちがってはいない。良心は最終的に、自分の判断を他者に向かつて開くことを決意した。それは良心が、自分のなかに「共同的^Eであるとする意志」を自覚したからだ。しかし、共同的であろうとする意志、とは何だろうか。それは、「関係の喜びを求めようとする」と同じことではないだろうか。

ヘーゲルはそのことを、うまくいえなかったかもしれない。自己意識から理性への進行は、あたかも意識の「正常」な発^Dテンのようにみえるし、理性こそ「義しい」態度である、と主張しているようにもみえる。しかし、ヘーゲルが良心の箇所^Dで語ろうとしたのは、あきらかに「普遍性を考慮する理性の態度の根っこは、関係の喜びを求めようとする意志にある」ということだ。

、ヘーゲルのいう理性とは、「義しい態度」でもなければ、「普遍的真理を把握しうる特権的な場所」でもない。関係の悦びを求めるところ、「私にとつて」だけでなく「みんなにとつて」という視点をもとようと努め、自分の判断を他者に向かって開こうとする。そういうことを、ヘーゲルは（とてもわかりにくい言い方で）語ろうとしていたのだ。

こういう理性の態度は、相手との直接の関係だけにかぎらない。社会という大きな場面に関しても、同じことがいえるからだ。自分の掲げる理想や正義は、ほんとうに人々の生きている実情をくみとっているのか。その点を考慮に入れてはじめて、自分の正義は受け入れられる可能性を広げることができる。自分の考えを人々に受け入れてもらいたいと願うこと、そして、人々に絶望してしまわないで（「あいつらはバカだ」にならないで）、人々に対する信頼を自分のなかにもちたいと願うこと。人々と新たな共同関係を取り結びたいと願うこと。そう願うからこそ、^オ自分の正義が「独善」にならないか、とチェックする意味がある。

だからこの態度は、どこかに「大衆の意識」を想定したうえで、それに身をすりよせることとはちがう。またこの態度は、社会や集^E団を批判するとき「やさしいソフトな言い方」をしましょう、ということでもない。とても厳しい批判であってもいい。しかし、外側から嘲笑^{あざわら}うように批判するのはよくない、とぼくは思う。

ぼくの考えでは、批判の行為はほんらい、新たに共同関係を取り結ぼうとする行為であるはずだ。しかし、大衆からの距離をとるためだけの批判、自分の優^Fエツ性を保つだけの批判、そういうものが眼につくことも多い。そのたびに、正直いってぼくはガツカリする。思想がそんなも

のになってしまったら、ほんとうにつまらない。

（西研「ヘーゲル 自由と普遍性の哲学」による）

（注）*ヘーゲル＝ドイツの哲学者

(1) 二重傍線部A～Fのカタカナと同じ漢字があてはまるものを、次の①～④の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

A 過^{||}テイ

① テイ案

② テイ裁

③ テイ淑

④ 課テイ

1

B 上^{||}シ

① 歴シ

② 歌シ

③ シ会

④ シ牙

2

C ^{||}ヒ較

① ヒ革

② 是ヒ

③ ヒ例

④ ヒ岸

3

D 発^{||}テン

① テン換

② テン開

③ テン舗

④ テン加

4

E 集^{||}ダン

① ダン体

② ダン圧

③ ダン房

④ ダン落

5

F 優^{||}エツ性

① エツ覧

② 愉エツ

③ エツ境

④ チョウ過

6

(2) 傍線部ア「努力を続けている」とありますが、これに近い意味の四字熟語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- ① 羊頭狗肉
- ② 暗中模索
- ③ 有為転変
- ④ 粉骨砕身

(3) 本文中の空欄 I ・ II に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- ① 〔I もしくは II ただ〕
- ② 〔I もしくは II だから〕
- ③ 〔I なぜなら II ところが〕
- ④ 〔I なぜなら II だから〕
- ⑤ 〔I すなわち II ただ〕
- ⑥ 〔I すなわち II ところが〕

(4) 傍線部イ「言葉のモラル」の例として適当でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- ① 相手に対して主張したいことがあったので、相手が理解しやすい言い方をよく考えて伝えた。
- ② 相手について批判的なことを言うときに、失礼にならないよう敬語を適切に使いながら伝えた。
- ③ 相手に対して不満を感じることがあったので、そのようになっていく理由についてよく考えた。
- ④ 相手と話すときには相手のことをよく理解し、互いに信頼感をもたせて話せるように心がけた。

(5) 傍線部ウ「これはまったく、その人次第」とありますが、それはどのようなことを表していますか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

① 自分と相手がどうしても相容れない場合、自分にとって最も都合のよい相手を探すべきであるということ。

② 相手が自分の考えを受け入れてくれない場合、相手との関係の有り方をどう変えるか検討すべきだということ。

③ 自分の考えが相手に伝わらない場合、自分にとって相手との関係は重要かを考えてみるべきだということ。

④ 相手から適切な理解を得られない場合、あきらめずに自分なりの表現方法を模索するべきだということ。

(6) 傍線部エ「共同的であろうとする意志」とありますが、それはどのようなことを表していますか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

① 自分だけの考えにとられるのではなく、他者との関係性に悦びを求めることを目指す理性をもちょうとすること。

② 自分一人の力で考えを深めようとするのではなく、多くの人々と共同しながら真理を追い求めようとする。

③ 自分だけが獲得した普遍的真理であっても、誰もがそれをよく理解できるようにわかりやすく説明をすること。

④ 自分だけが理性にあふれた特権的な場所にいるのをやめて、多くの人々の立場に立った考えを生み出すこと。

(7) 傍線部才「自分の正義が『独善』にならないか、とチェックする」とありますが、それはどういうことか筆者が説明したものと最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- ① 大衆から認められるために、厳しい批判を控えるようにして、聞き入れやすい表現をしているか確認すること。
- ② 社会に自分の考えが受け入れられるために、それが人々の実情に合っているか確認すること。
- ③ 人々と新しい共同関係を結ぶために、時に厳しい批判も交えながら、大衆の意識に迎合しているか確認すること。
- ④ 大衆と適切な距離を保って社会を批判するために、その主張の内容が人々に対する信頼を基盤としているか確認すること。

(8) 本文の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

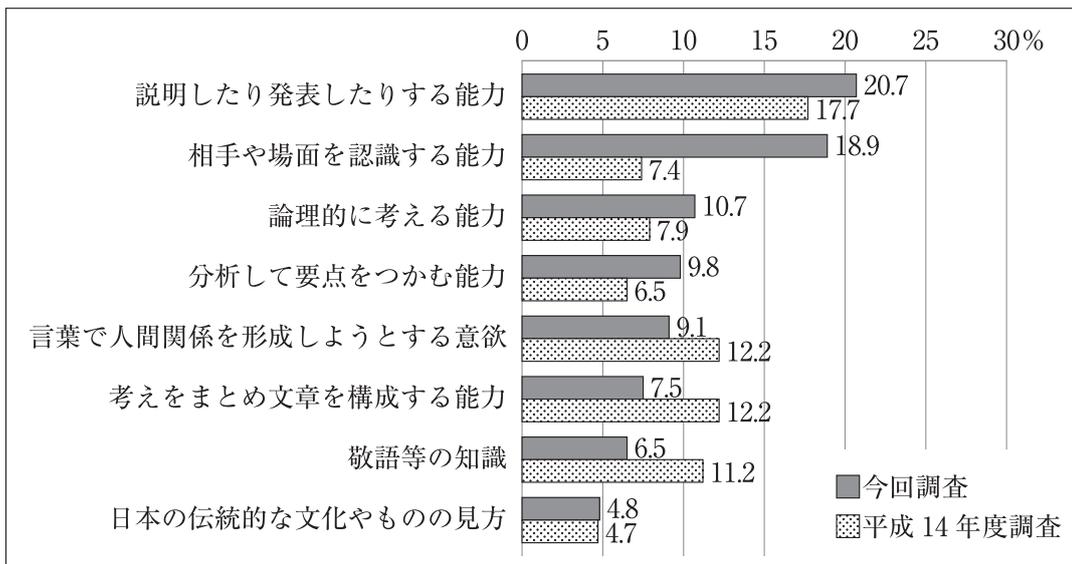
- ① 筆者は個人的な体験を契機として議論を進めており、ある思想をもって批判を行う際は、他者との間に信頼関係を築くことを意識しながら適切な表現を用いるべきだと述べている。
- ② 筆者は読者の教訓となるように、自分の考えに不足していた視点を挙げており、思想は自分と大衆の間の共同関係を結ぶ意義があると同時に、大衆を導くものであるべきだと述べている。
- ③ 筆者は西洋の哲学者の考え方を参考にしながら思索しており、思想を構築する際は、大衆の一般的な考えに沿うことが大切で、人々が自ら理解したいと思うように語られるべきだと述べている。
- ④ 筆者は専門用語を省いた一般的な言葉を用いつつ、優れた思想と大衆の批判を目的とするものでなく、その時代ごとの大衆の需要を的確に捉えたものであるべきだと述べている。

(9) 波線部「関係の悦びを求めるからこそ、言葉を鍛える意味がある」とあるが、次の資料は、「これからの時代、必要だと思う言葉に関わる知識・能力」についての調査結果である。この資料から読み取ることができる内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- ① 平成十四年度調査と今回調査をくらべると、「日本の伝統的な文化やものの見方」の回答者の割合に大きな変化はないが、「敬語等の知識」については、今回調査で回答者の割合が約二倍になっている。
- ② 平成十四年度調査と今回調査をくらべると、「言葉で人間関係を形成しようとする意欲」という回答は約四分の三に減少した一方、「相手や場面を認識する能力」という回答は約二・五倍に増加している。
- ③ 平成十四年度調査と今回調査の両方で、「説明したり発表したりする能力」が必要だという回答が首位になっており、人前で話す機会が日本人の日常生活の中で増加したことがわかる。
- ④ 平成十四年度調査から今回調査にかけて、「考えをまとめ文章を構成する能力」を持つ人の割合が四割ほど低下したが、「分析して要点をつかむ能力」を持つ人の割合が約一・三倍に増加している。

〔資料〕「これからの時代、必要だと思う言葉に関わる知識・能力」



(文化庁「平成28年度 国語に関する世論調査」より)

二 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

ある修行者が摂津の国（現在の大阪府）の大きな古寺で、不動尊（仏教の守護神である不動妙王）を念ずる呪文を唱えながら夜を明かしている、百人ほどの鬼が火を持って現れ、中に入ってきた。

恐ろしと思へども、[＊]すべきやうもなくて居たれば、おのおのみな居ぬ。一人ぞまた所もなく、[＊]え居ずして、^①火をうち振りて、[＊]我をつらつらと見ていふやう、我が居るべき座に、新しき不動尊こそ居給ひたれ。今夜ばかりは外におはせとて、片手して我を引きさげて、堂の縁の下に据ゑつ。さる程に、「[＊]暁になりぬ」とて、この人々ののしりて帰りぬ。

まことにあさましく恐ろしかりける所かな、とく夜の明けよかし。去^イなんと思ふに、[＊]からうじて夜明けたり。うち見まはしたれば、ありし寺もなし。はるばるとある野の来し方も見えず。人の踏み分けたる道も見えず。行くべき方もなければ、あさましと思ひて居たる程に、[＊]まれまれ馬に乗りたる人どもの、人あまた具して出で来たり。

いと嬉しくて、「ここはいづくとか申し候」と問へば、「[＊]なかくは問ひ給ふぞ。肥前国ぞかし」といへば、あさましきわざかなと思ひて、事のさま詳しくいへば、この馬なる人も、「いと の事かな。肥前国にとりても、これは奥の郡なり。これは御館へ参るなり」といへば、修行者悦びて、「道も知り候はぬに、さらば道までも参らん」といひて行きければ、これより京へ行くべき道など教へければ、舟尋ねて京へ上りにけり。

〔宇治拾遺物語〕による

〔注〕 ＊すべきやうもなくて＝どうしようもなく

＊居たれば＝座つていると ＊え居ずして＝座れなくて

＊つらつらと＝つくづくと ＊のしりて＝騒ぎながら

＊とく＝早く ＊からうじて＝やつと

＊まれまれ＝たまたま

＊肥前国＝現在の佐賀県と長崎県にまたがる地域

＊御館＝領主が住む屋敷

(1) 二重傍線部①～④の中から、動作の主体が他の三つと異なるものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

① うち振りて ② 思ふに

③ 思ひて ④ いへば

(2) 本文中で、「 」が抜けている発話部分があります。その部分として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。 16

① 我をつらつらと居給ひたれ

② 我が居るべき座に居給ひたれ

③ 我をつらつらと外におはせ

④ 我が居るべき座に外におはせ

(3) 傍線部ア「堂の縁の下に据ゑつ」とありますが、鬼がそのようにした理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- ① 鬼が集まっている場所に人間が一人まぎっていたから。
- ② 不動尊に見られていると落ち着くことができなから。
- ③ 寺の中に入ったところ自分の座る場所がなかったから。
- ④ 夜が明けたらすぐに逃がしてやろうと思ったから。

(4) 傍線部イ「まことにあさましく恐ろしかりける所かな」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- ① なんとも薄暗くて恐ろしい場所である
- ② 本当にひどく恐ろしいところだなあ
- ③ 実は浅はかだから恐がりなのだろうか
- ④ 実際は言い表せないほど恐いのかもしれない

(5) 傍線部ウ「野の来し方も見えす」とありますが、このときの修行者の気持ちの説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

- ① 思っていたよりも遠くまで来られて、安心する気持ち。
- ② 広々とした美しい景色に出会えて、うれしい気持ち。
- ③ 誰かが助けてくれるに違いないと思って、期待する気持ち。
- ④ どこに行けばいいかわからなくて、不安に思う気持ち。

(6) 本文中の に入る語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

- | | | | |
|---|----|---|----|
| ① | 良縁 | ② | 稀有 |
| ③ | 慶賀 | ④ | 陳腐 |

(7) 本文の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

① 修行者は鬼たちに突然襲われたが、不動尊の力を借りて難を逃れた後、通りかかった人たちにより無事救われ、領主が住む京の屋敷まで連れて行かれた。

② 修行者は鬼たちに知らない場所に連れて行かれたが、必死の思いで逃げ出した後に通りすがりの人々に保護されて、馬に乗って京へ向かうことができた。

③ 修行者は鬼が集まるところでおびえながら過ごした後、その翌日馬に乗って大勢のお供を連れた人物に出会うことができ、無事に京を目指して出発することができた。

④ 修行者は鬼と一晩楽しく過ごした後一人で寺を出発し、多くの人々が行き交う大きな街までたどり着くことができたものの、京への道がわからなくなった。

(8) 本作品（「宇治拾遺物語」）は鎌倉時代に成立した説話集です。この作品より前に成立した作品として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

22

① 『世間胸算用』

② 『おくのほそ道』

③ 『今昔物語集』

④ 『雨月物語』

問題は次のページに続きます。

☐ 次の漢文を読んで、後の問いに答えなさい。

昔者紂為象箸一而箕

子怖以為象箸必不

始。

則錦衣九重、^④ 廣室高

台[○]吾畏^二其卒^一、^⑤ 故怖其

加^二於土鏹^一、必將^二犀玉

(注) *紂|| 古代の中国の王 *象箸|| 象牙でできた豪華な箸

*箕子|| 紂王の親族の政治家 *土鏹|| 土で作られた食器

*犀玉|| サイの角や美しい石

*羹|| 汁物 *菽藿|| 豆や葉

*旄象豹胎|| 牛や象や豹の肉 *茅屋|| 粗末な草ぶき屋根

之^の杯^一。象箸玉杯、^② 必不^レ

羹^二菽藿^一、必旄象豹胎[○]

(1) 傍線部①「象箸必不加於土鏹」の現代語訳として最も適当なものを、

次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

☐ 23

旄象豹胎、^{ナラバ} 必不^下衣^二短^③

① 象牙の箸ならば土製の食器を使うことはなく、

② 象牙の箸と土製の食器で食べるのは許されず、

③ 象牙の箸は土製の食器と使うと不便なものであり、

④ 象牙の箸なら土製の食器こそがふさわしく、

褐^一、而食^中於茅屋^下之^上、

(2) 傍線部②「必不羹菽藿」とありますが、これを書き下し文に改めたものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。 24

- ① 必ず羹に菽藿をせず、
- ② 必ず菽藿を羹にせず、
- ③ 必ず不菽藿を羹にせず、
- ④ 必ず菽藿を羹にせず、

(3) 傍線部③「短褐」とありますが、これと対照になっているものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。 25

- ① 犀玉 ② 菽藿
- ③ 茅屋 ④ 錦衣

(4) 傍線部④「広室高台」とありますが、それはどのような部屋を表していますか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。 26

- ① 狭くてみすばらしい部屋 ② 広いが寒々しい部屋
- ③ とても豪華な部屋 ④ 小さいが華麗な部屋

(5) 傍線部⑤「故怖其始」が「故に其の始を怖る」という書き下し文になるように返り点をつけるとき、次のA～Cに適するものを、それぞれ後の①～⑧の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい（同じ番号を何度選んでもよい）。

故 ^A 怖 ^B 其 ^C 始

・ A 27 ・ B 28 ・ C 29

- ① 一 ② 二 ③ 三 ④ レ
- ⑤ 上 ⑥ 下 ⑦ 返り点なし

(6) この文章から読み取れる箕子の人柄の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。 30

- ① 箕子は王の権威にひるむことなく、大胆な発想で政治を改革することのできる、行動的な人物であった。
- ② 箕子は王の一挙手一投足を警戒し、国内政治について絶えず細かな心配や不安を抱える小心者であった。
- ③ 箕子は王の取った小さな行動が、その後どのような問題につながるのかを想像できる、優れた人物であった。
- ④ 箕子は王が望むであろうことをあらかじめ見抜き、前もってそれを用意できる才覚にあふれた人物であった。

四

次の(1)～(4)の熟語と最も関係の深い言葉を、後の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 慎重 31

(2) 慈悲 32

(3) 好機 33

(4) 不運 34

- ① 釈迦に説法
- ② 鬼の目にもなみだ
- ③ 紺屋の白ばかま
- ④ 得手に帆をあげる
- ⑤ 木に竹を接ぐ
- ⑥ 君子危うきに近寄らず
- ⑦ 船頭多くして船山に登る
- ⑧ 弱り目にたたり目

五

次の(1)～(4)の文の空欄にあてはまる最も適当な言葉を、後の①～⑦の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 先生が急ぐようにと 35 います。

(2) これから私がそちらへ 36 お話をうかがいます。

(3) 先生はその絵の細部を 37 います。

(4) どうぞこちらへ 38 ください。

- ① ご覧になって
- ② おっしゃって
- ③ めしあがって
- ④ ちょうだいして
- ⑤ いただいて
- ⑥ お越しになって
- ⑦ まいって

六

次の(1)～(4)の組の文の中で、傍線部の単語の品詞が異なるものを、①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

- (1)
- ① おかしなことを言わないでください。
 - ② 楽しい時間はあっという間に過ぎる。
 - ③ 今日は夕焼けがとても美しかった。
 - ④ 家に帰るのがすっかり遅くなった。

39

- (2)
- ① これがぼくたちの学校だ。
 - ② ぼくの兄は水泳の選手だった。
 - ③ この絵は色彩がとても豊かだ。
 - ④ 明日なら動物園に行ける。

40

- (3)
- ① 電車がゆっくりと走っている。
 - ② 明日はどうやら雨になるようだ。
 - ③ ずっと雪が降っている。
 - ④ こんな忙しい日はめったにない。

41

- (4)
- ① 午後から寒くなると予想される。
 - ② 友達に手紙を書いた。
 - ③ 誰か玄関に来たらしい。
 - ④ 彼はとても頼もしい人だ。

42

